



79
まいん

しさがしまぶんいん
四阪島分院



現在の四阪島分院
門柱はカラミレンガ

その時の診療科は、内科、外科、婦人科でした。また、病床数は普通病床6床、隔離病床3床、伝染病床13床でした。

その後、昭和2年(1927)3月23日に歯科が開設、昭和9年に眼科が加わりました。

ところで、昭和35年8月末～9月にかけて、赤痢が蔓延しました。赤痢患者及び、保菌者が続出し、隔離病棟はもちろん、普通病棟にも収容しましたが、収容しきれないほどの事態が発生しました。そして、社宅や社宅寮も臨時に収容場所となりました。



海から見た四阪島分院

すみともべっしびょういん
住友別子病院

しさがしまぶんいん
四阪島分院は、明治38年(1905)1月5日に私立住友病院四阪島出張所として、開設されました。

明治30年の夏に発生した伝染病により、事務所の全員が、消毒や予防に従事せざるを得ない状況になり、職務がままならなくなったため開設されました。

そして、明治41年12月30日に四阪島出張所および看護婦寄宿舎が新築竣工されました。

島人の命と健康を守り抜いた
八十余年



病院の左上は日暮別邸

隔離別収容人数は次のとおりです。四阪島分院隔離23名、四阪島分院普通病棟29名、日暮社宅臨時隔離11名、勝浦社宅臨時隔離39名、養成寮臨時隔離10名、合計112名でした。

昭和51年、四阪島製錬所での銅製錬が操業を終結、翌年4月1日には、通勤体制の変更に伴い、在住者が減少し、四阪島分院を縮小して四阪島診療所となりました。

そして、昭和61年3月31日に、四阪島診療所が廃止されましたが、開設から81年、四阪島の人々の命と健康を守り続けてきました。

現在でもその立派なたたずまいは島の緑に埋もれながらもひっそりと残されています。



四阪島へは関係者以外は立ち入ることができません。

